

会員の広場



鉄道が好きになって六十余年

小寺 克二（東京）

先日の新聞記事で「日本の鉄道技術が英国に里帰り」とのタイトルに思わず嬉しくなりました。記事はJRの新幹線についてハードの面だけでなく、運行技術とセットで英国に輸出する商談がまとまったとの内容でした。

ご存知の通り、我が国の鉄道は明治初年、

英国人の指導で開業しました。それが、140年経過した現在、世界に誇る新幹線として里帰りましたわけです。

小学生の頃、西宮市の自宅から、省線（明治生まれの父がいつもそう言っていました）、阪急電車を乗り継いで、御影の学校にパス通（定期券を首からぶら下げて通学）したことがきっかけで鉄道趣味にはまりました。大学

時代はいわゆる「鉄道研究会」に入部し、現在でもそのOB会の仲間と楽しんでおります。

就職先は鉄道には縁のない金融機関でしたが、子供っぽい趣味が恥ずかしく、隠れキリシタンならぬ「隠れ鉄ちゃん」を貫きました。

この趣味の仲間は初対面の場合、「おたくのジャンルは？」と尋ねられることが多く、

「乗り鉄」「撮り鉄（鉄道写真）」「時刻表派」「模型」とか答えます。最近は「葬式鉄ちゃん」なるジャンルが出来て、「最終列車、廃線」の際に出掛ける人達もおります。

私は「Nゲージ模型派」「入場券収集派」ですが、「宇高連絡線」と「寝台急行・銀河」の廃止の時だけは「葬式鉄ちゃん」になり、乗船、乗車しました。その際、宇高連絡線では「ご好評に答えて、最終便の後、臨時便を出します」とアナウンスが流れました。一方、寝台急行・銀河の場合は、終着の大阪駅で「またのご乗車をお待ちしています」と車内アナウンスが流れました。これには思わず苦笑しました。

この趣味の仲間と「鉄道を読んで楽しむ

本」を編集したことがあります。その時は思ったほどには売れず、印税の代わりに何十冊も完成本を引き受ける始末となったのも今では懐かしい思い出です。

鉄道に関わるニュースと言えば、最近でも新幹線網の延伸やリニア新幹線の開業に向けての準備進捗、東日本大震災で不通となっていた南北リアス線それぞれの復旧に喜ぶ沿線の方々など、枚挙に暇がありません。

日本の鉄道車両、運航技術が世界各国に輸出されることは大変喜ばしい限りです。しかし、安全運転こそ利用者としての最大の願いであることには変わりはありませんし、新幹線の人身に関わる無事故記録がさらに続いていくことを願ってやみません。